

古町関係者ヒアリングのまとめ

■ 実施期間：令和 8 年 6 月 18・19 日

■ 対話を行った関係者：13 団体（上古町～花街のエリアで事業活動等を行っている民間事業者）

項目	主な意見
古町エリアについて	● 古町は、歴史・個店・文化的蓄積があり、他地域との差別化につながる「個性」や「アイデンティティ」が残っている地域だが、一方で、百貨店閉店後、かつての「憧れ」や買い物目的地としての力は弱まり、若い世代にとっては街の吸引力が低下。 ● 古町はそれぞれに特徴のあるエリアがあり、無理にまとめなくて良い。上古町、飲み屋街・花街、それぞれに特徴がある。 ● ローサのある 6～7 番町は、特徴が無いのが特徴、古町の「起点・入口」として皆が訪れる、広場的な機能が良い。 ● 子どもや学生向けに、無料や低価格で利用できる勉強場所や遊び場、雨天時の居場所が、古町には不足している。 ● 子どもや学生が古町で過ごし、学び、遊んだ記憶を持つことで、将来的にもどってくる循環を生む街にしていけるべき。 ● 古町には文化的なものがあるといわれるが、観光面で言うと弱い。ずいぶん金沢と差がついている。 ● 百貨店撤退により、美術品の催事がこのエリアから消えた。にいがた 2 キロのエリアには居住者人口が増えているし、富裕層がいるエリアだが、その人たちが集って楽しむ街になっていない。
西堀ローサについて	● 西堀ローサに文化的接続はない（文化的な価値はない）と感じる。 ● 機能転換案として、倉庫や発酵系の製造場所、アーバンスポーツなど都市型機能を持つ防災型公園、自然光を取り入れた公園 ● 西堀ローサには芸術や演劇、ギャラリーなど様々な意見があるのかもしれないが、それを好きな人が旗を振らないと成立しない。ソフトがあって、その後ハードが整う方がよい。
古町エリアの駐車場について	● コインパークの増加で、古町らしい街並みが失われることが課題。コインパークの規制とセットで、地下駐車場を集約駐車場にするならば良いかもしれない。 ● コインパークの増加による、街並みの連続性や景観が損なわれていることは課題だが、地下駐車場は不便である。 ● 西堀地下駐車場が引き受けていた車は全て地上の駐車場で消化されており、あえて地下駐車場を再開する必要はない。